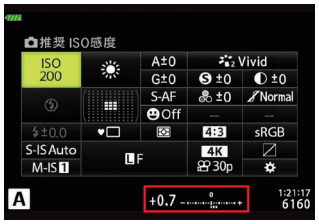
Section 07

露出の基本を知る

Keyword　露出補正 / 測光方式 / ハイライト&シャドウコントロール

写真撮影で最も重要な要素の1つが露出。応用撮影モードでは、露出を思い通りにコントロールすることで、自分の撮りたい写真表現の幅を広げることができる。

1 露出について知る



露出とはかんたんに言うと、写真に取り込む光の量、つまり明るさのこと。ISO感度（→P52）、シャッター速度、絞り値の組み合わせで決まる。暗い場所では絞り値を小さく、あるいはシャッター速度を遅く、明るい場所では絞り値を大きく、あるいはシャッター速度を速くする必要がある。写真の明暗が撮影者の意図する明るさで再現された状態を、**適正露出**と呼ぶ。P、A、S、ART/モードでは、カメラが被写体の明るさを見極めて露出を自動決定するが、画像がより明るく（プラス補正）、または暗く（マイナス補正）なるように撮影者が露出をコントロールすることができる。これを**露出補正**という。

2 露出補正の設定方法

モードダイヤルをP、A、Sにすると露出補正値と露出補正バーの設定値が緑色になる。

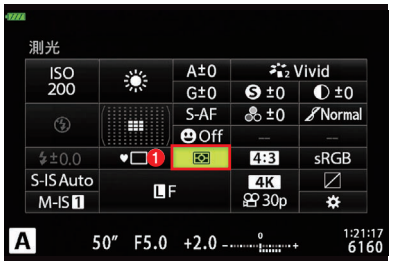
フロントダイヤルを❶のほうに回すとマイナス補正される。

プラス補正すると画像がより明るく、マイナス補正するとより暗く表現される。±５の範囲で補正できる。

フロントダイヤルを❷のほうに回すとプラス補正される。

3 測光方式を選ぶ

測光とは、露出を決めるためにカメラが被写体の明るさを測ること。シーンに応じて測光する範囲と測光方式を選ぶことで、撮影者の意図に合わせた露出が得られる。

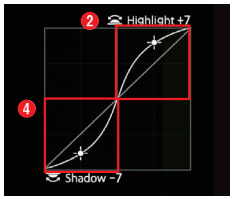


マーク	測光方式
	デジタルESP測光
	中央重点平均測光
	スポット測光
	スポット測光ハイライト
	スポット測光シャドウ

OK ボタンを押し、モニターに LV スーパーコンパネが表示された状態で△▽◁▷ボタンで測光❶を選択。フロントダイヤルを回し、種類を選ぶ。

4 ハイライト&シャドウコントロール

OM-5ではハイライト部（画像内の明るい部分）とシャドウ部（画像内の暗い部分）の明るさを変えるハイライト&シャドウコントロールができる。これによって写真のコントラスト（明暗）の強弱の調節や、ハイライト部だけを暗くしたり、シャドウ部だけを明るくしたりすることができる。



OKボタンを押して、LVスーパーコンパネでハイライト&シャドウコントロールを選択する。グラフが表示され、フロントダイヤル❶を回すとハイライト部❷、リアダイヤル❸を回すとシャドウ部❹の露出をそれぞれ調節できる。ここではハイライト+7、シャドウ−7に調節。明るい部分はより明るめに、暗い部分はより暗めになり、コントラストが強調される。INFOボタンを押すと中間部（ミッドトーン）の調節画面に切り替えられる。

要点
- ●露出とは写真の明るさのこと。ISO 感度、シャッター速度、絞り値の組み合わせで決まる。
- ●露出が撮影者の意図と違う場合は、露出補正をする。

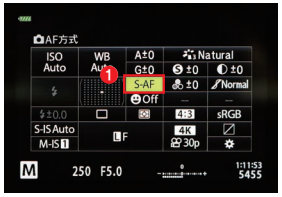
Section 06

星空AFで星景撮影をする

Keyword　星空 AF

星空AFは、**星空にピントを合わせることに特化したAF機能**。夜空のごく小さい星にも確実にピントを合わせられ、本格的な天体写真の撮影が可能だ。撮影の状況に合わせて、［速度優先］と［精度優先］の2つのモードが選べる。

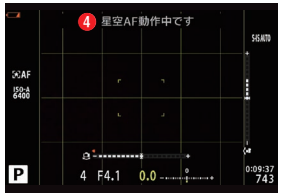
1 星空 AF を設定する



LV スーパーコンバネを開き、［AF方式］❶を選択し、OK ボタンを押す。

［星空 AF］を選択し❷、OK ボタンを押して決定する。

撮影画面でAEL/AFLボタンを押す❸。



星空 AF がスタートする❹。

■ 星空AFの詳細を設定する

［カスタムメニュー］の［A4. AF/MF］を開き❶、［星空 AF 設定］を選んで OK ボタンを押す❷。

△▽で［速度優先］か［精度優先］を選び❸、OK ボタンで決定する。

2 速度優先で撮影する

星空AFの［速度優先］で撮影。ピント合わせの際には、AFターゲット枠を使ってピントを合わせる星を大雑把に選んでから星空AFを作動させるとピントを合わせやすい。手持ちでファインダーを覗きながら撮影したため、ぶれないように速度優先で撮影した。

カメラ設定
撮影モード M（マニュアル）　絞り F4.0
シャッター速度 10秒　露出補正 0.0EV
ISO感度 6400　WB オート
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 12-45mm F4.0 PRO
焦点距離 20mm
その他 星空AF

3 精度優先で撮影する

星空AFの［精度優先］で撮影。三脚にカメラを固定して撮影したので、スピードよりもAFの精度を求めて精度優先で撮影した。**三脚使用時は精度優先で、手持ちの場合は速度優先に設定**するとよい。

カメラ設定
撮影モード M（マニュアル）　絞り F4.0
シャッター速度 20秒　露出補正 0.0EV
ISO感度 6400　WB 4000K
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 8-25mm F4.0 PRO
焦点距離 9mm
その他 星空AF

要点
- 星空 AF 機能を使えば、ごく微小な星にもくっきりとピントを合わせることができる。
- 手持ちで撮影するか三脚で撮影するかによって［精度優先］と［速度優先］を使い分けるとよい。

Section 04

広角ズームレンズを使って撮影する

Keyword パースペクティブ

肉眼で見ている画角よりも広く写すことができるレンズの中でも、18mm（35mm判換算/36mm相当）以下の焦点距離を広角と呼んでいる。広角ズームレンズでは**近くのものは大きく、遠くのものは小さく写る**ので、遠近感が強調される。広角ズームレンズで被写体に近づいて大きく撮ると迫力のある写真になる。

1 広角ズームレンズの活用ポイント

近くのものは大きく、遠くのものは小さく写るという広角ズームレンズの特性をいかし、遠近感を強調して撮影した。川辺の景色を広角ズームレンズで撮影。広角レンズの遠近感を利用することで、目の前の雲の広がりをダイナミックに際立たせて撮影することができた。

カメラ設定 撮影モード S（シャッター優先） 絞り F6.3 シャッター速度 1/2000秒
露出補正 −0.7EV ISO感度 200 WB 5300K
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 8-25mm F4.0 PRO 焦点距離 8mm

2 広角ズームレンズを使いこなす

広角ズームレンズはカメラを構えるポジションを工夫することで**パースペクティブ**が強調され、広がりや奥行きが表現できる。OM-5のバリアングルモニターなら頭より高い位置、地面や水面すれすれからでも撮影できるので、遠近感をいかしながらダイナミックな写真を撮影してみよう。

カメラ設定
撮影モード S（シャッター優先）
絞り F5.0
シャッター速度 1/3200秒
露出補正 −1.0EV
ISO感度 200
WB 5300K
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 8-25mm F4.0 PRO
焦点距離 8mm

広角ズームレンズとは

広角ズームレンズは被写界深度が深い特性があるため、画面全体にピントが合ったように見えるのが大きな特徴だ。一方で、画面に多くのものが写り込みやすくなるので、構図が散漫にならないように整理する必要がある。主役となる被写体をどのように配置するかを意識し、無駄のない構図にすることが重要だ。バリアングルモニターを活用して、ローアングルやハイアングル（→P25）で撮影してみよう。

M.ZUIKO DIGITAL ED 8-25mm F4.0 PRO（35mm判換算/16-50mm相当）/防塵・防滴機構

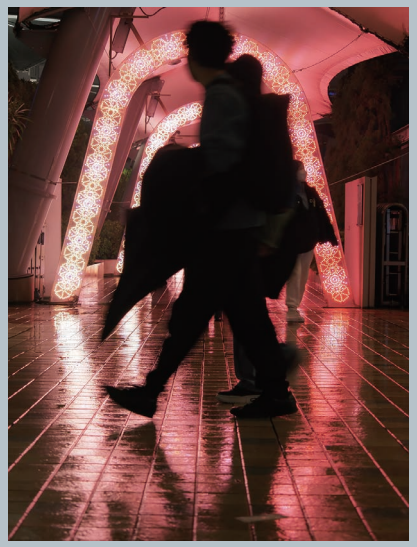
要点
●目で見ている以上の広さを写すことができる。
●遠近感が強調されるので、写真に奥行きを感じさせることができる。

Section 07

印象的な夜景写真を撮る

Keyword バリアングルモニター / ライブコンポジット /ISO 感度 / シャッター速度

近年では三脚を使えない場所が増えてきているが、OM-5は小型軽量で最大6.5段の手ぶれ補正が備わっているので、手持ちでの夜景撮影やスナップ撮影も気軽にできる。ただし**ライブコンポジット**で撮影をする際には、三脚を使うか固定できる場所にカメラを置く必要がある。



バリアングルモニターを使って低い位置の構図で撮る

雨が降っているときや雨上がりの夜景は、街の明かりが水たまりに反射してとてもカラフルになる。この反射を撮る際はできるだけ低い位置にカメラを構えて撮るといいだろう。**バリアングルモニター**を上に向けると、カメラを低い位置に構えてもしっかりと構図を確認して撮影できる。

カメラ設定

撮影モード	A（絞り優先）	絞り	F4.0	シャッター速度	1/30秒
露出補正	−0.7EV	ISO感度	200		
WB	オート				
使用レンズ	M.ZUIKO DIGITAL ED 12-45mm F4.0 PRO			焦点距離	37mm

1 ライブコンポジットを使って光跡を撮る

ライブコンポジットを使えば電車や車のライトの光跡を簡単に表現することができる。長時間露光をしていると幹線道路の交差点などでは明るくなりすぎてしまうことがあるが、ライブコンポジットでは白トビさせずに撮影できる。シャッター速度を短めに設定して絞り値とISO感度で明るさの調整をすると、夜景を綺麗に撮影できるだろう。

カメラ設定

撮影モード M（マニュアル） 絞り F5.6
シャッター速度 1秒
露出補正 0.0EV ISO感度 200
WB 3000K+1STEP(R)-2STEP(G)
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 40-150mm F4.0 PRO 焦点距離 42mm
ライブコンポジット 1枚の撮影時間 1秒
比較明合成 13コマ

2 高 ISO 感度とシャッター速度でポートレートを撮る

夜に人物ポートレートを撮影するときには、開放F値の小さい明るいレンズを使い、**ISO感度を高く**して、**シャッター速度をできるだけ速くする**とよいだろう。シャッター速度を速くすると、手ブレだけでなく被写体のブレも防ぐことができる。作例では、シャッター速度を1/200秒にしたので、歩きながらの撮影でも手ブレを起こさずに撮影できた。

カメラ設定

撮影モード A（絞り優先） 絞り F1.4
シャッター速度 1/200秒
露出補正 ＋0.7EV ISO感度 6400
WB 7500K-7STEP(R)-7STEP(G)
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 20mm F1.4 PRO
焦点距離 20mm

要点

- 水たまりの反射はバリアングルモニターを使って低い位置から撮る。
- 高 ISO 感度、1/200 秒のシャッター速度なら歩きながらのポートレートもブレずに撮れる。

Section 03

OM Workspace で画像編集

Keyword OM Workspace / RAW 現像 / 深度合成 / 画像編集

OM Workspace（以下Workspace）では**撮影情報の確認や画像編集、RAW画像の現像**ができる。

1 OM Workspace を使う準備

OM SYSTEMのウェブサイトでWorkspaceのダウンロードページを開き、カメラ底部に記されているシリアルナンバーを入力してダウンロードし、手順に従いインストールする。

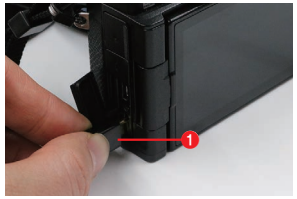
■ ウェブサイトからダウンロード&インストール

OM SYSTEMのウェブサイトにあるサポート/ダウンロードページから手順に従ってインストールできる。

https://support.olympus-imaging.com/owdownload/

ダウンロードする際は、カメラ底面に記載してあるシリアルナンバーをダウンロード画面に入力する。

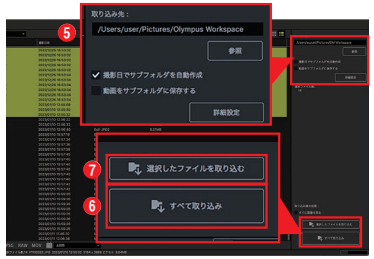
2 OM Workspace で画像をパソコンに取り込む



カメラの電源を切った状態で、側面のコネクタカバーを開ける。付属のUSBケーブルの小さいほうのプラグをカメラのマイクロUSBコネクタに差し込み❶、大きいほうのプラグはパソコンのUSBポートに差し込む。

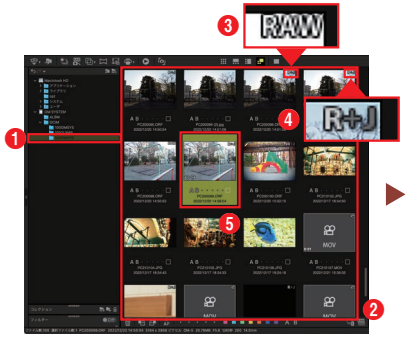
パソコンでWorkspaceを起動し、カメラの電源を入れる。カメラのモニターにUSBの動作確認が表示されるので、［MTP］を選択する❷。
※［ストレージ］を選択しないと、4GBを超える動画ファイルは取り込めない

［ファイル］メニューの［取り込み］❸から、［カメラから取り込み］を選択する❹。
※Windows版とmacOS版では画面の一部が異なります。



Workspaceにカメラ内の画像一覧が表示されるので、画像の取り込み先を指定する❺。すべての画像を取り込みたい場合は［すべて取り込み］をクリック❻。一部の画像だけを取り込みたい場合は、画像を選択し［選択したファイルを取り込む］をクリックする❼。

3 OM Workspace で RAW 画像を現像する



指定したフォルダか、［最後に取り込んだ画像］❶をクリックすると取り込んだ画像がサムネイル（一覧）で表示される❷。画像の右上にRAW❸と表示されているものがRAW画像、R+J❹と表示されているものがRAWとJPEG両方で記録された画像だ。編集したいRAW画像を選択し❺、ダブルクリックすると選んだ画像が拡大して表示される❻。

ONE POINT 画面を拡大する

ズームインアイコンで部分的に拡大すると、カメラのモニター上では気づかなかったピントのズレやぶれが確認できる。画像をドラッグすれば拡大する表示位置を動かすことができる。